



小田小だより

平成28年5月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 TEL 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校

お前もいっちょまえになったなあ！
～こどもの日に思いを寄せながら～

校長 木村 昭雄



家に手伝いに行くことになっていました。私の家は農家ではなかったため、父の生家である本家に手伝いに行っていました。

当時の農作業は、今のように田植え機やコンバインはありませんでした。一株一株、手で植えて、手で刈り取ります。家族のみんなが、朝早くから日が暮れるまで田んぼに出て仕事をします。家に戻ってのんびりお昼ご飯を食べる時間さえもつけないので、お昼は田んぼのあぜ道に敷いた蓆(むしろ)に腰を下ろして重箱に入ったおにぎりをいただきます。黒砂糖入りのきな粉をたっぷりまぶしたおにぎりの何と美味しかったことでしょうか。おかずは近くの山で採れた筍(たけのこ)や独活(うど)の煮物と漬け物でしたが、お茶を飲みながら食べるととっても美味しかったのを今でも覚えています。

小学生の私にもできる仕事はたくさんあります。田んぼに苗を運ぶのも私の仕事でした。自転車の荷台にくくりつけた大きなかごの中に苗の束を積んで運びます。一度、苗を積み過ぎて荷台が重くなり、バランスを崩して自転車ごと倒れたことがあります。あたりに飛び散った苗の束を拾い集めて積み直して運びましたが、田んぼに着いた時は、みんなが田んぼの中で立ったまま私が来るのを待っていました。そんな失敗をしてしまった私でしたが、本家の伯父さん夫婦は私を叱りませんでした。叱るどころか、「いい腰のぼしができた」と言って笑って許してくれたのです。私の両親も本家の伯父さん夫婦も、人に迷惑をかけたり、嘘をついたり、弱い者いじめをしたりするものすごい剣幕で叱りましたが、仕事をしているの失敗は全くといっていいほど叱りませんでした。田植えの仕事で最もつらいのは、腰を曲げたまま、一株一株苗を植える仕事です。田んぼの端から端まで、何往復もしなくてはならない作業は、腰の痛い、本当につらい作業でした。

一日の作業を終えて、夕方自分の家に帰れば、お風呂沸かしは私と兄の仕事でした。水を張り、薪と石炭を運び、火をつけて、ちょうどいい湯加減になるまで竈(かまど)を見ていなくてはなりません。その火の明かりで本を読むのが私の楽しみの一つでした。今の子どもたちには想像もつかないかもしれませんが、私の子ども時代は、どこの家も同じようなものでした。やらないと叱られるからではなく、仕事をした後の、親や親戚の人たち、ご近所の大人たちからの次の一言が嬉しかったからです。それは

「昭ちゃん、お前もいっちょまえになったなあ！」
という一言でした。「よくがんばったな。おかげでみんな助かった。役に立つ人間に成長したな」という意味の最高の褒め言葉だったのです。この一言で私の心は満たされたのです。

5月5日は「こどもの日」。この日を機会に何か一つ、お手伝いではなく、家族の一員としての家事を、仕事を分担して任せてみてはいかがでしょうか。任された仕事をがんばっている姿を褒めてあげましょう。その褒め言葉が心の満足を生み、心の成長を促していきます。その先に、いっちょ前になったお子さんをきっと見るでしょう。